

限定・非限定についての一考

一附：限定と制限

上野 隆男

はじめに

内山節氏の『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』を読んでいて、「ああやはり」と思った。それは次の一節だ。

百姓の暮らしをすればするほど自然の偉大さがわかる。間引きの例えで述べたように、人間は自然そのもののあり方とは違うことをする。それはときに自己への罪悪感をもたらし、ますます深い自然への尊敬を生み出す。石も土も岩も、木も草も虫も動物たちも、この自然の中で「おのずから」のままに生きているということ、そのこと自体のなかに穢れなき清浄なものを感じると、それを清浄なる靈性と表現してもいいし、清浄なる仏性(もちろん仏性は清浄なものにきまっているのだが)と述べてもいい。なぜなら自然の偉大なる力を神の側から表現すれば靈性であり、仏の側から表現すれば仏性だということだけだからである。日本の伝統的な民衆精神では、神と仏は語り方の違いにすぎない。(pp. 102-103*下線筆者)

何が問題なのだろうか。下線部を再度読んでほしい。内山氏の文章の下線部の前文にある「清浄なもの」は「清浄な」が「もの」を修飾している。これは、「もの」にはいろいろあるが、その中で「清浄なもの」に限定するから、これは「限定(制限)用法」だ。一方、「清浄なる靈性」や「清浄なる仏性」では、「靈性」や「仏性」にもいろいろあるが…というのではなく、それぞれ固有のものが持つ属性(attribute)を述べているから、「非限定(非制限)用法」ということになる。「清浄な(る)」は名詞を等しく修飾しているが、その機能は異なる。しかし、日本語では見かけ上、その区別がつきにくい。それで、内山氏は、このように言っているわけだ。

1. 限定(制限)と非限定(非制限)

日本語では、「白雪」のようないわゆる「非限定(非制限)」用法と考えられる表現が相当ある。と

ころが、英語の学習において、関係詞の項目でいきなり「制限と非制限」という解説に出会うから、それが関係詞に特有のもののように思う人が出るようだ。それも、「カンマがあれば非制限」(本によっては「継続用法」と記している)というような解説までがつく。これはまちがいでないが、後置修飾の場合の説明であるから、本質的な説明とはいえない。

2. 限定・制限という用語について

たとえば『ジーニアス英和辞典 第4版』の「この辞典の使い方」を見ると、次の説明がある。

形容詞の用法 [限定] 限定用法(attributive use)(名詞の直前[または時に直後]に用いてその名詞を直接修飾する用法)で用いる。

これを見ると、「限定」とは論理的な意味ではなく、「(前置または後置)修飾」という意味をもつようである。なぜ、「修飾」ではなく「限定」という異なる概念の用語にしたのだろうか。また、attributiveは、「属性を表す」という意味だが、なぜこれが「限定」と訳されているのだろうか。

『広辞苑 第6版』に「限定用法」という見出しがあり、次のように説明されている。

[言] (restrictive use) 形容詞の用法の一つ。名詞が表す事物の範囲をさらに限定する用法。「赤い花」で、形容詞「赤い」が名詞「花」の表す範囲を狭める機能をもつ類。

ここでは、attributiveではなく、restrictiveとされていることに注意してほしい。気になって、岩波書店に問い合わせたところ、この項目の執筆者から次の回答をいただいた。「確かに『赤い花』のように名詞を直接修飾する形容詞の用法は、伝統的な英文法では attributive という用語が当てられるのがふつうです。ただこの用語は、「属性を表す」とい

うのが本来の意味で、だとすると『赤い花』の「赤い」も『この花は赤い』の「赤い」のどちらも属性を表しているので、区別がつかないことになります。実際フランス語では、attributif という用語は「叙述用法」の意味で使われています。というわけで『赤い花』のように、名詞が表す事物の範囲をさらに狭める＝限定するという意味を表そうとするならば、私は restrictive という用語のほうが適当だと考えた次第です。形容詞と同じように名詞が表す事物の範囲を狭める働きをする関係節については、まさに「限定節」(restrictive clause)と呼ばれているので、形容詞と関係節の同一の機能を表示するためにも restrictive という用語を、形容詞にも用いるのが適当だと考えています。」

執筆者は「非限定」には言及していないが、日本語の「限定」という用語をその本来の意味で使用しており、それは英語では restrictive である、と言っている。これは的を射た意見である。

3. 「限定」と「制限」

私はここまで、「限定」と「制限」を特に区別せずに使ってきた。それは、日本語としての「限定」と「制限」に意味上の際だった違いはないからである。ところが、『新英語学辞典』には次のように記されている。

attributive 限定語(句)：名詞(相当語)を主要語とし、それを修飾する形容詞(相当語)をいう。attribute と呼ばれ、述詞(predicative)に対する。…限定語の機能は、意味論的に見て、制限的用法(restrictive use)と非制限的用法(non-restrictive use)の2種に大別される。

内容は理解できるが、日本語で「限定」の中に「制限」と「非制限」があると言われても、どうということかと感じるのではないだろうか。

先ほどの『広辞苑』の執筆者は restrictive を「限定」としているし、細江逸記氏の古典的名著『英文法汎論』でも、restrictive は「限定」non-restrictive は「非限定」としており、「制限」という用語は用いていない。

気になって、いくつかの学習参考書や一般向け参考書を調べてみた。

・「名詞または代名詞に接して、それを修飾する直接形容的用法(Attributive Use)」(荒牧鉄雄(1957)『現代英文法 改訂版』三省堂。)

・「The Attributive Use(属性的用法) Adjective を Noun の直前(ときには直後)に置いて、その Noun を直接に形容する場合をいう。(p.126)」(新津米造(1952)『新英文法総覧』北星堂書店。)

・「① a good pen/a large city この①のように「どんな…」の〈どんな〉という位置にきて、直接〈名詞〉につく用法を付加的用法(Attributive use)といい…」(毛利可信(1974)『ジュニア英文典』研究社。)

これらに対し、下記の見解もある。(※の内容は筆者による注。)

・(形容詞の項目で)「直接に名詞を修飾する限定用法(Attributive Use)／(関係代名詞の項目で)「who と which には限定用法(Restrictive Use)と非限定用法(Non-restrictive Use)がある」

(江川泰一郎(1991)『英文法解説 改訂3版』金子書房。)

* Attributive と Restrictive の区別がなされずに、「限定用法」という日本語だけがひとり歩きしている。

・「限定用法は、必ずしも、名詞の適用範囲を制限するとは限らない。a beautiful girl のような場合は、制限的用法であるが、white snow などでは非制限的である」(安井稔(1996)『英文法総覧 改訂版』開拓社。)

* 形容詞については「限定用法」という用語を用いているが、上記のように説明され、内容はわかるものの日本語の用語としては苦しいと思われる。

・「(非)限定的関係詞節((non-)defining relative clause)、(非)同定的関係詞節((non-)identifying relative clause)と呼ばれることもある。」(「非制限用法」注釈)

(安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』開拓社。)

* 内容は『新英語学辞典』や『英文法総覧』に

準じているが、上記からも、英語の中味ではなく「限定」と「制限」という日本語に混乱があることがわかる。

以上のことを念頭において、次の「実例による研究」を読んでいただきたい。

4. 実例による研究

修飾語句は、用いられる位置により〈前置修飾〉〈後置修飾〉、機能により〈限定(制限)〉〈非限定(非制限)〉に分類でき、その組み合わせで英語の修飾の実態を解明することができる。なお、後置修飾で非制限用法の場合に、英語ではカンマが用いられ、それは、関係詞の場合に限られるものではないことが以下の例文でわかる。例文は、小説など芸術的に凝ったものではなく、日常的で authentic なものを提示するという視点から、英米の中・高校程度の英語の内容の“World Book Encyclopedia 2010 Edition”から採集した英文を使用した。なお、網かけの部分は被修飾語、下線部は修飾語句(の一部)である。

4. 1. 形容詞の場合

4. 1. 1. 位置=前置 機能=限定

Much of Northern Ireland has low mountains and rolling fields.

(注：山や平原にもいろいろあるが、「低い山」「波打つ平原」と、「山」や「平原」の中味を限定している。)

4. 1. 2. 位置=前置 機能=非限定

The world-famous British Museum, in London, is noted for its outstanding collections in archaeology and many other fields.

(注：British Museum は1つのものゆえ、「非限定」が用いられる。「世界的に有名なロンドンの大英博物館」)

4. 1. 3. 位置=後置 機能=限定

Canada's extensive national park system includes areas ideal for many recreational activities.

(注：「地域」といってもいろいろあるので、「数多くの娯楽活動に理想的な(地域)」と限定(制限)を加えている。)

4. 1. 4. 位置=後置 機能=非限定

Napoleon, victorious on the Continent, was unable to invade the island kingdom; so he sought to ruin the “race of shopkeepers” by forbidding Europe to trade with Britain.

(注：Napoleon は個人名ゆえ、その説明は「非限定修飾」でなされる。「大陸では勝ち誇っていたナポレオン」または、「ナポレオンは大陸では勝ち誇っていたが、この島国の王国へは侵入できなかった」としてもよいだろう。)

4. 2. 分詞の場合

4. 2. 1. 位置=前置 機能=限定

China has the world's oldest living civilization. Its written history goes back about 3,500 years.

(注：「(今も)生きている文明」は、バビロニア文明など滅亡したものと区別するため、また「文字に書かれた歴史」は、文字以外の歴史と区別している。)

4. 2. 2. 位置=前置 機能=非限定

After the Great Depression struck, more Germans were attracted to Hitler's promises to improve the economy, defy the hated Treaty of Versailles, and rebuild Germany's military power.

(注：「ベルサイユ条約」は固有名詞ゆえ、これを説明するのは「非限定修飾」である。「国民から嫌悪されているベルサイユ条約」)

4. 2. 3. 位置=後置 機能=限定

The first bridge known to historians was an arch bridge built in Babylon about 2200 B. C.

(注：「最初の橋」のうちで「歴史家に知られている(橋)」と限定している。)

4. 2. 4. 位置=後置 機能=非限定

The Chinese made the first known printed book, called the *Diamond Sutra*, in A. D. 868.

(注：「知られている最初の印刷本」で、すでに限定されているから、その説明は「非限定」で、後置修飾のためカンマがつけられる。『金剛(般若)経』と呼ばれる、印刷本として初めて知られた本または「中国人は知られている最初の印刷本を作り、それは『金剛(般若)経』と呼ばれる。』)

France has a variety of daily newspapers.

representing a wide range of political opinions.
(注:「(意見を)表さない」新聞は想定されていない。「広範囲にわたる政治的意見を表すさまざまな日刊紙」あるいは、「フランスにはさまざまな日刊紙があり、それらは広範囲にわたる政治的意見を表している」)

5. 関係詞の非制限用法

関係詞による修飾は後置修飾だから、問題になるのは語順ではなく、いわゆる非制限用法の「訳し方」ということになる。

5.1. Austria's rich forests, which cover about 45 percent of the country, provide plentiful lumber, paper, and other products.

(注:「国土の約45%を占めるオーストリアの豊かな森林は…」または「オーストリアの豊かな森林は、国土の約45%を占め、…」のいずれでもよいだろう。)

5.2. England produced William Shakespeare, who is considered the greatest dramatist of all time, and Sir Isaac Newton, one of history's most important scientists.

(注:「時代を超えて最大の劇作家と考えられるウイリアム・シェイクスピア」がよいだろう。)

5.3. Polish culture also flourished during the 1800's, when the Polish national identity was being threatened by the Germans and the Russians.

(注:先行詞はthe 1800'sで、whenは「継続用法」になり、「その時」と接続詞的に解釈される。「ポーランドの文化は、また、1800年代に花開いたが、この時はポーランド人の民族的独自性がドイツ人やロシア人によって脅かされていたのであった。」)

5.4. In *King Lear*, Shakespeare created the brilliant characterizations that mark his dramas at their best. The characters realize their mistakes, which reflects Shakespeare's basic optimism. But they do so too late to prevent their destruction and that of the people around them. This fact is at the heart of Shakespeare's tragic view of humanity.

*注: whichの先行詞は前の文の内容で、修飾関係はない。「登場人物は自分のまちがいに気づいて

おり、それはシェイクスピアの基本的楽天主義を映している。」これも「継続用法」といわれるもの。この用語は、細江逸記氏が『英文法汎論』ですでに発表し、Thomson et al. の *Practical English Grammar* にも同様の説明がある。

6. まとめ

要点は、(1)「限定」は「修飾」の下位区分として存在し、特に「非限定」というものは、関係詞に固有のものではなく、「修飾(厳密には、名詞を修飾)」に一般の問題である。(2)「前置修飾」では、日本語だけでなく、英語でも「非限定」は意外に認識されにくい。(3)英語はたまたま、後置で非制限の場合にはカンマを用いているという点に注意してほしい、ということである。

参考文献

〈言語資料〉

内山節(2007)『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』講談社現代新書。

World Book Editors. 2010. *World Book Encyclopedia 2010 Edition*, World Book.

〈参考書籍〉

大塚高信・中島文雄 監修(1982)『新英語学辞典』研究社。

小西友七・南出康世 編(2006)『ジーニアス英和辞典 第4版』大修館書店。

新村出 編(2008)『広辞苑 第6版』岩波書店。

細江逸記(1971)『英文法汎論 新版』篠崎書林。

Douglas Biber et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*, Pearson Education. [※日本の参考書などで、従来「分詞構文」に分類されていた、〈名詞+、+分詞〉に「非制限修飾」と考えられるものが多数あり、その視点を明確に記述してくれているものである。本書のChapter 8の中の8.6 Major structural types of postmodificationにその説明があり、教えられることが多い。]

Thomson et al. 1986. *A Practical English Grammar 4th ed.*, Oxford University Press.